

～3カ年ロードマップ：水郷のポテンシャルを「昼の賑わい」へ～

日田商工会議所

隈を元気にする委員会

第1回委員会 振り返り(2026.1.26)

項目	概要・内容
役員選任	副委員長：古田 嘉寿美 氏
現状認識	平日の人通りが極端に少ない。夜の店（スナック等）は多いが、昼の要素が不足。
注目事例	「隈の灯まつり」の成功：普段静かな通りもイベントで「化ける」底力がある。

私たちが目指す「元気」とは？



賑わいの創出

観光客だけでなく、地元の学生や住民が日常的に歩き、集える街であること。



商いの活性化

商売人が増え、新しい店を持つ人が増えること。一軒より二軒、三軒と連なる魅力。



次世代への継承

子供たちが楽しめる要素を。限界集落化を防ぎ、かつての活気を取り戻す。

待ったなしの現状：商工業者の推移

日田市内の商工業者数は、過去15年で約18%減少しています。



※減少幅は拡大傾向にあり、早急な「刺激」と「行動」が必要です。

成功体験： 「隈の灯まつり」

昨年9月に開催されたイベントでは、予想を遥かに超える来場者が記録されました。

- 道路を通行止めにした開放的な空間
- 地元高齢者が「一番喜んだ」という事実
- 隈には「人を呼ぶ底力」がある

「単発のイベントを、
いかに日常の風景に変えていけるか？」



| 3年間のステップ: 行動する委員会へ

2026年 【集める・聴く】

2027年 【企てる・提案】

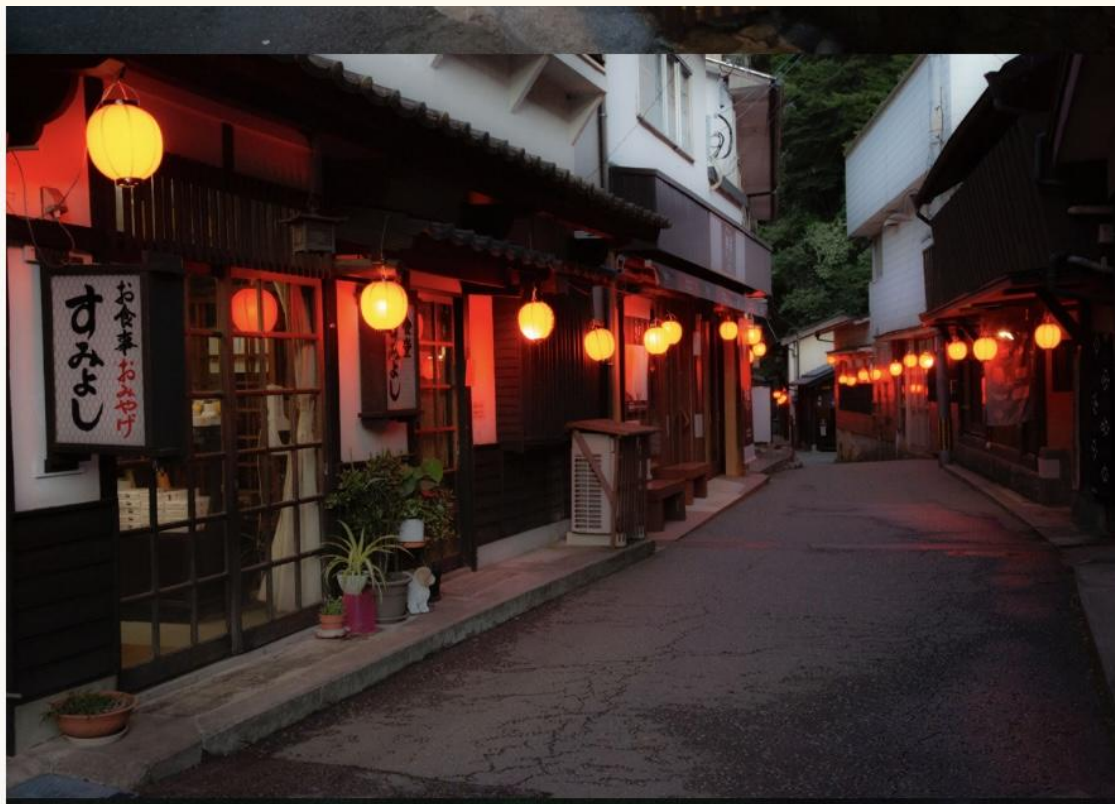
2028年 【動かす・実現】

現状把握と委員の意見集約。
地域の「妄想」を形にする土台作り。

具体的な実施プランの策定。
行政・関係機関への予算提案と合意形成。

プランの実行と行動。
隈町の「新しい日常」をスタートさせる。

重点施策 1: 隈らしさの演出(景観)



統一感のある演出

暖簾や花壇を統一し、空き店舗でも「隈らしさ」を感じる景観作り。



歴史の再発見

豆田町よりも古い歴史。そのストックを昼の散策の魅力へ転換。

重点施策 2: 水辺との距離を縮める

親水空間の整備

- ≡ 水上ステージの再活用：「水の情報発信基地」としての原点回帰。
- ≡ 護岸の整備：規制の壁を越え、もっと川に近づける階段状の護岸や親水エリア。
- 🛡️ 安全対策：ライフジャケット等、安心して水辺を楽しめる仕組み。



重点施策 3: 鵜飼・船遊びの「公的」支援



危機に瀕する伝統文化

鵜匠は現在わずか2名。屋形船や船頭も激減しています。

自力での存続は限界に。

行政を含めた継承の仕組み作りや、公的なメンテナンス支援が必要です。「地域の宝」を失う前に具体的な行動を。

重点施策 4: 新しい「昼の流れ」を作る



健康・ウォーキング

市民のジョギング・散歩需要に着目。距離表示や景観整備で、健康と観光をリンク。



ペットツーリズム

犬連れ宿泊の強い需要を吸収。ペットと散策しやすい環境作りで差別化。



デジタル・若年層

進撃の巨人のARスポット活用など、若者が歩きたくなるデジタルの仕掛け。

**隈には底力がある。
単発ではなく、
毎日がお祭りのような賑わいを**

失敗を恐れずに提案し、行動に移す。

ご意見・ご質問

【今後のスケジュール】

2ヶ月1回程度のペースで「作戦会議」を開催予定

本日のロードマップ案について、忌憚のないご意見をお聞かせください。

次回日程は別途事務局よりご連絡いたします。